

## 令和3年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 共同研究推進経費 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援経費
プロジェクトの名称	音楽教育における民謡とクラシック音楽の美学的関連性の研究 ～ベートーヴェンの民謡編曲を通して～
報告者氏名・所属・職名	深井尚子 岩見沢校 准教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	深井尚子 岩見沢校 准教授 大久保光哉 岩見沢校 准教授 新山佳奈 あいの里高等養護学校 教諭 横山英由美 北海道大学文学院博士後期課程
研究内容及び成果の概要	
<p>ベートーヴェンの民謡編曲は、今まで価値の低い商業的な意味合いを持った仕事と捉えられていた。しかし、最新の研究で、ベートーヴェンにとって民謡編曲は、意義深いものであり、その内容も独自性があることがわかってきた。その点に注目し、民謡というジャンルとその編曲への熱意がベートーヴェンには強くあったことを最新の研究から見出し、その民謡編曲の価値は、高いものであることを発見した。一般的に学校教育で取り上げられるベートーヴェンの作品は、交響曲第5番「運命」や第9番「合唱」、またピアノソナタでは、作品13「悲愴」、作品27-2「月光」などいわゆる芸術作品である。また、音楽教育において「民謡」というジャンルも取り上げられており、日本の民謡、世界の民謡として、民族的な特徴を知るようになってきている。そこで、いわゆるクラシック音楽で有名な作曲家ベートーヴェンが、イギリス民謡（ウェールズ、スコットランド、アイルランド等）を179曲も編曲していることを融合し、ベートーヴェンの民謡編曲を高等養護学校3年生の授業で演奏し、解説することにした。</p> <p>この研究の目的は以下の4つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ベートーヴェンの民謡編曲の目的とその背景を検証し、今までの価値が低いという評価を見直すこと</li> <li>②ベートーヴェンの他の作品との関連性と19世紀初頭の民謡への価値の高まりとの関連を見出すこと。</li> <li>③ベートーヴェンの民謡編曲における特殊性とその演奏法および活用法の研究</li> <li>④①～③の研究を高等養護学校という教育現場において、生徒たちにアンケートを実施し、どのような効果があるのかを検証すること。</li> </ol> <p>ベートーヴェンの民謡編曲には、日本でもよく知られている、「蛍の光」、「庭の千草」などが含まれており、その音楽は、私たちが親しんでいる楽曲とはかなり違いがあることがわかった。そこには、歌詞の意味合いからの解釈がみられ、日本語に翻訳された歌詞とは意味合いが異なること、また、音楽的な躍動も異なり、そこに当時の民謡のとらえ方やヨーロッパにおける民謡への親しみ方が実践による比較によって明確になった。</p>	
成果の公表の状況	
<p>【学術論文】深井尚子・大久保光哉・横山英由美・新山佳奈 共著          ベートーヴェンの民謡編曲から見た多様性へのアプローチ ～学術研究の学校教育への応用～          北海道教育大学紀要第73巻第1号に発表予定</p>	
教育現場で活用可能な分野・教材等	
音楽、芸術分野で、ベートーヴェンなどの有名な作曲家の新しい面を紹介することができる。クラシック音楽界の民謡の融合により、多角的な授業を行うヒントになると考える。	
配布又はダウンロード可能な資料	現時点では、なし。
問い合わせ先	代表者：深井尚子 電話：0126-32-0361 FAX：同上 mail：fukai.shoko@i.hokkyodai.ac.jp